


とじこめられたらクラクション

～ 車内閉じ込めから命を守ろう～

こどものみなさんへ

- ① もし、くるま や バスのなかに とじこめられたら ハンドルにあるクラクションを りょうてで ちからいっぱい おしましょう。
- ② だれかが きづいてくれるまで なんども ならしましょう。
- ③ クラクションは きけんを つたえる あいずです。ふだんは ぜったいに ならさないで くださいね。



通園バスや乗用車内への置き去りによって子どもの命が奪われるケースが後を絶ちません。私たち大人は、このことにどれほど心を痛め、憤りを感じてきたことでしょう。子どもを置き去りにしないための措置を徹底的に講じることが大前提ですが、どんなに注意していても、人間誰も間違いをおかすもの*。いざという時のために、命を守る術を子どもに身に付けさせることも必要です。まずは「車にとじこめられたらクラクションを鳴らす」という行動が、命を守る方法のひとつであることを知って下さい。そして、周りの大人や子どもたちに伝え、広めて下さい。私たちの行動で、子どもの命を守りましょう。

合言葉は「とじこめられたらクラクション」。伝えるポイントは4つです。

- ① 子どもの力ではクラクションを鳴らしづらいので、体重をかけて力いっぱい押すこと。
- ② 誰かに気付いてもらうまで何度も鳴らすこと。
- ③ クラクションは危険を知らせる合図なので、普段は絶対に鳴らさないこと。
- ④ 可能であれば、大人の方と一緒に練習してみる。 ※周囲の方の許可を得てから行って下さい。

※練習ができない場合、クラクションを鳴らすとは、実際に「びーっ」と音が鳴ることを教えてあげて下さい。

*企業の調査によると、幼稚園・保育園の送迎担当者 267 人中 21 人が、園児を残してバスを離れた経験がある、全国の子どもを乗せて車を運転するドライバー2,652名の5人に1人が子どもを車内に残した経験があると回答しています（出典：三洋貿易株式会社 プレスリリース 2022年7月15日）。

ご賛同いただける方は、各所への発信にぜひご協力をお願いします。本チラシはご自由に複製してお使いください。